和歌山県地球温暖化対策情報誌

わおん通信

2023 春号 vol.48

特集 COP27を知る
エジプト・シャルム・エル・シェイク

CONTENTS

P2－P3
中辺路の森から未来を育てる
企業の「脱炭素化」を目指すセミナー開催
寒さに負けず、ビーチクリーンへ！
安全・安心 “オーガニック料理教室”

P3 推進員ノブくんの ああしたら、こうなった⑤

P4－P5
COP27を知る
エジプト・シャルム・エル・シェイク

P6 県情報

P7 推進員さん訪問記㊷

P8 INFORMATION

中辺路の森から未来を育てる

2022年11月19日
企業の森の保全活動
田辺市中辺路

[日本たばこ産業株式会社]

11月19日、和歌山県の中心部に位置する「JTの森 中辺路」で森林保全活動が行われました。同社の各営業所から集まった社員をはじめ、奈良県の大学生や県センター職員など、総勢73名が参加しました。2005年から続いているこの取組は、荒廃した山の再生を目的としており、和歌山県の「企業の森」事業を活用し、中辺路森林組合の協力を得ながら、社員らの手で総面積50ヘクタール以上ある森林について、植栽や下草刈り、間伐、補植、作業道整備といった保全活動を行っています。

今回、「植栽」と「道普請（みちぶしん）」（林道などの整備）の2つのグループに分かれ、森林組合のアドバイスを受けながら作業を行いました。「植栽」のグループでは、苗木の埋設と、鹿などによる食害を防ぐネットの敷設を行いました。作業の現場は、写真で見る以上に傾斜がきつく、参加者は慣れない環境の中、汗をかきながら2時間ほど作業を行いました。昼食を終えた一行は、箸折峠の付近に安置されている「牛馬童子像」など近露周辺の名所を散策しながら、樹木の香気を浴び、安らぎを得ていました。

この森林には、これまでにサクラ・モミジ・コナラ・ヒノキなど合わせて18万本の苗木が植栽されており、地道な保全活動によって、豊かな自然が蘇りつつあります。このような森林の保全活動はCO_2吸収源対策ともなることから、今後も注目していきたい取組だと感じました。

企業の「脱炭素化」を目指すセミナー開催

2022年12月23日
和歌山県自治会館

[和歌山県産業技術政策課、株式会社紀陽銀行]

脱炭素に取り組んでみたいけど、何から始めればいいのか、またどんな目標・計画を立てればいいのか、それにはどのくらいお金がかかるのか。こんな悩みを持つ県内の経営者向けに、12月23日、県産業技術政策課主催、㈱紀陽銀行共催の「わかやま脱炭素経営セミナー」が和歌山県自治会館で開催されました。

はじめに、近畿経済産業局から「脱炭素に向けた政策の動向」と題し、カーボンニュートラルに向けた国の方針や中小企業が活用できる国の支援策についての紹介がありました。支援の条件などはありますが、補助を受け再エネ設備や省エネ設備を導入することで、高騰するエネルギー対策としてエネルギーコストを削減できるだけでなく、自社から排出されるCO_2排出量を削減することが可能となり、資金調達手段の獲得、製品や企業の競争力向上の点において経営力強化にもつながり得るとのことでした。

次に、脱炭素経営に向けたCO_2排出量の見える化・削減について、アスエネ㈱からCO_2排出量の見える化のメリットや算定方法の説明などがありました。脱炭素経営を実施するためには、まずは、CO_2がどこからどれだけ排出されているか現状を把握し、「見える化」することで、企業の目指すべき方向性が明確になるということが認識できました。また、「見える化」の実現が「企業のブランド力向上」に繋がったという中小企業の事例の紹介もあり、セミナー参加企業にとって、今後の取組意欲に繋がる内容でした。

最後に、和歌山県における脱炭素先行事例として、有機化合物メーカーのセイカ㈱から事例紹介がありました。一昨年から専門部署を設立しており、CO_2排出量の現状把握・重要課題の絞り込み・排出量低減策の検討とプロセスを踏んでいくことで、着実に成果を上げていることが分かる内容でした。

同社が脱炭素経営を始めた背景には、国連パリ協定（2015年採択。「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求する」、「今世紀後半に人為的な温室効果ガスの排出と吸収源による除去の均衡を達成する」）の締結があったそうです。発展途上国や将来世代など、国内に限らず原因に責任が無いのに深刻な被害を受ける人が出ている現状について改めて考えさせられた機会となりました。

寒さに負けず、ビーチクリーンへ！

2023年1月21日
産湯海岸

[アイデアル]

1月21日、日高町の産湯海岸で、ビーチクリーンピクニックが行われました。アイデアルが主催で毎月開催しているこのイ

ベントですが、今回は、地域の魅力を伝える「御博（おんぱく）*」のプログラムでもありました。

当日、寒さが厳しい産湯海岸でしたが、大人24名、子ども18名と多くの参加者で活気にあふれていました。まずは、うみわかまもるのスタッフがうみわかまもる紙芝居で海ごみの現状を伝えると、子供たちは食い入るように物語を聞いていました。「ごみは悪者ではなく、人間の役に立つために生まれてきたもの」そんな紙芝居のメッセージに、参加者のごみへの印象が少し変わったようでした。

その後、防寒対策をした参加者は、ごみ袋やトングを持ってビーチクリーンに向かいました。岸壁の隙間やテトラポットの奥から沢山のごみが見つかると、トングや軍手などを使いながら、ごみ袋がいっぱいになるまで懸命にごみを拾いました。地中深く潜り絡まった大きな魚網は、大人がどんなに引っ張ってもびくともせず、回収することができなかったため、とても残念そうでした。

参加した5歳の女の子は、「海にあるごみで生き物が死んだら嫌やもん。まもるくん（紙芝居に出てくるウミガメの名前）が死んでしまったら海守れんやん。」と言いながら必死にごみを拾っており、その姿がとても印象的でした。

大切な生き物や地球を守るために子供たちが頑張る姿は、大人にも感銘を与えます。さらに多くの人が参加してほしいイベントだと感じました。

＊御坊日高博覧会の略称

安全・安心 “オーガニック料理教室”

2023年2月4日
高野口地区公民館

［伊都・橋本地球温暖化対策協議会］

2月4日、「オーガニック料理教室」が、伊都・橋本地球温暖化対策協議会主催で開催されました。このイベントは、オーガニック食品の普及を目的として2009年から毎年開催しており、コロナ禍で3年ぶりの開催となりました。料理に使用される食材や調味料は、全てオーガニック（農薬や化学肥料を使っていない）食品を使っており、食の安全・安心に高い関心を持つ親子など23名が参加しました。

今回は、里山の棚田米を使った「かんたん中華おこわ」、「豚きのこハンバーグ」、「有機さつまいものはちみつレモン煮」、「チョコもち」の4品を作り、みんなでおいしく黙食しました。

最後には、「気候非常事態宣言」を行っている橋本市とタイアップして、地球温暖化による気候変動、SDGsの取り組み、環境に配慮したエシカル消費についてみんなで勉強しました。今後とも、地道な活動ではありますが、エシカル消費の浸透を図っていきたいと考えています。

（推進員　黒井成男）

推進員 ノブくんの ああしたら、こうなった 5

私は、うちの畑で収穫した作物等を使って、自家用に梅干しや柿酢、味噌などを作っています。今回はそんな加工食品を作る中で感じたことを紹介していきます。

柿酢は果実酢の一種で、とてもおいしく、私の家では、米酢と同じように様々な料理に使用しています。購入すると高価なお酢であるため、使ったことのある人は少ないかもしれませんが、自宅で簡単に作ることができます。作り方としては、収穫した柿のヘタをとり、容器に詰め、数ヶ月間寝かせるだけで、柿酢が完成します。また、味噌についても、大豆を茹でてつぶし、塩と麹を混ぜて寝かせておくだけで、簡単においしいものを作ることができます。

自分で加工食品を作ることは、現代社会において自然を身近に感じる方法の一つだと思います。例えば、柿酢を作る過程では、酵母が柿に含まれる糖分をアルコールに分解し、さらに酢酸菌がそのアルコールを酸化させることで、酢が出来上がります。このように目に見えない小さな生物たちのはたらきや食品の変化を直接感じることができます。また、自家製加工食品を作ることで、無駄を減らすことができます。収穫してもすぐに消費できない野菜や果物を加工することで、長期間保存することが可能となり、食品を買うたびに発生するプラスチックごみも出てきません。

味噌を仕込んだビン

味噌玉

現在、私たちは、スーパーマーケットやコンビニで手軽に加工食品を購入できますが、それらが、どのような環境で生産・収穫され、どのような方法で加工され、手元に届いているかを知ることは困難です。一方、加工食品を自分で作る場合は、その過程を直接知ることができます。さらには、自分で育てた野菜や果物を使って作った加工食品であれば、どんな環境で育てるか自分で管理することができることで、食品の安全性についても、納得できます。

このように加工食品は、自然の恵みを味わえるだけでなく、食の安全性や無駄の削減にもつながります。是非、挑戦してみてはいかがでしょうか。自家製の柿酢や味噌を使った料理は、味も風味も格別ですし、食べる喜びもひとしおです。

特集 COP27を知る エジプト・シャルム・エル・シェイク

2022年11月６日（日）から20日（日）まで、国連気候変動枠組条約第27回締約国会議（COP27）がエジプトのシャルム・エル・シェイクで開催されました。今回のCOPではどのような取り決めがされたのか、そのポイントを見ていきましょう。

COP(コップ)とは

COPとは、「Conference of the Parties」の略で、日本語に訳すと「締約国会議」、つまり「条約を結んだ国々による会議」という意味になります。国際連合の様々な条約について「締約国会議」が行われていますが、今回取り上げるのは、1992年に採択された「国連気候変動枠組条約」についての締約国会議となります。

この会議は、条約を締結した198の国及び機関が年1回集まって開催されており、温暖化の原因となる温室効果ガス濃度を安定化させるため、温室効果ガスの排出量を削減するためのルール作りや、途上国への支援の在り方など、地球温暖化対策に世界全体で取り組んでいくための議論がなされています。今回は、27回目の会議なのでCOP27となります。

これまでの成果と課題

今回開催されたCOP27の結果を見ていく前に、これまでのCOPについて、主な成果や課題などを振り返ってみましょう。

●COP21（フランス・パリ　2015年）

COP21では、2020年以降の気候変動に関する国際的な枠組みである「パリ協定」が採択されました。

【パリ協定の概要】

▼1997年COP3で採択された「京都議定書」の後継にあたる枠組み
▼世界の共通の長期目標として２℃目標の設定
- 「世界の平均気温上昇を産業革命前と比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をする。」
- 「できる限り早く世界の温室効果ガス排出量をピークアウトし、21世紀後半には、温室効果ガス排出量と吸収量のバランスをとる。」（カーボンニュートラル）

▼「すべての締約国」に温室効果ガス削減・抑制目標の設定・提出が義務づけ

「パリ協定」が画期的とされているのは、「すべての締結国」に温室効果ガスの排出削減の努力を求めている点で、「1.5℃目標」を達成するため、世界各国が取組を強化するきっかけとなりました。

●COP26（イギリス・グラスゴー　2021年）

前回のCOP26では、成果文章として「グラスゴー気候合意」が採択されました。

【グラスゴー気候合意の概要】

▼1.5℃に抑える努力の追求
世界の平均気温の目標について、パリ協定から１歩前進した表現となった。
▼パリ協定のルールブック完成
「市場メカニズム」（CO_2排出枠を「クレジット」として市場で取引する仕組み）の二重計上防止などの規則が定められた。
▼排出削減対策のない石炭火力発電の段階的な『削減』
石炭火力発電について「段階的な廃止」の草案から弱い表現に収まった。
▼2030年削減目標の見直し
「1.5℃目標」の達成には、各国の2030年削減目標の強化が必要であることから、2022年末までに、より野心的な目標への見直しが求められた。

「パリ協定」の枠組みを実施するために必要なルールブック（実施方針）は、2018年に合意される予定でしたが、「市場メカニズム」などいくつかの項目で合意に至っておらず、「パリ協定のルールブック完成」は、COP26の大きな成果とされています。

また、COP25が終了時点（2019年12月）で、カーボンニュートラル表明国は121か国（世界全体のCO_2排出量に占める割合が17.9%）でしたが、COP26終了時点（2021年11月)で、150か国以上となり、表明国の世界全体のCO_2排出量に占める割合が88.2%と大幅に上昇したことの成果の一つです。

●COP27開催前までの課題

COP26の後、新たな「2030年削減目標」を国連に提出した国は、24か国のみで、COP27開催前に、国連気候変動枠組条約（UNFCCC）の事務局が発表した報告書によると、パリ協定193か国・地域の削減目標を足し合わせても、2030年までに排出量が2010年比で10.6%増加し、今世紀末までに平均気温がおよそ2.5℃上昇する見通しが示されていました。UNFCCC事務局長のサイモン・スティール氏は、「世界を1.5℃に向けるために必要な排出削減の規模とペースにはまだほど遠い。」と述べ、各国政府に対し気候行動計画を強化し、今後８年間のうちに実施する必要があることを強調しました。

また、30年前から海面上昇等の影響など、気候変動による「損失と損害（ロス＆ダメージ）」について言及されてきており、これまでのCOPでも途上国は、先進国に対する歴史的責任の追求や、具体的な資金支援を求めていました。しかし、気候変動対策には相応の資金が必要であり、前回のCOP26でも、資金調達を話し合う場を創設するまでに留まっていました。

COP27開催

2022年11月６日～20日の間、エジプトのシャルム・エル・シェイクで、COP27が開催されました。各国の政府閣僚級の交渉が行われるCOP27本会合では、アメリカのバイデン大統領、フランスのマクロン大統領ら約100か国の首脳などが参加し、巨大な展示会や数千ものサイドイベントを含め約200か国から４万人以上が参加しました。COP27の成果文章として「シャルム・エル・シェイク実施計画」などが採択されました。

●COP27の成果について

【シャルム・エル・シェイク実施計画の概要】

▼1.5℃に抑える更なる努力を追及
▼世界の温室効果ガス排出量を2030年までに43％削減（2019年比）が必要
▼各国の2030年削減目標の再検討を強化
▼「損失と損害（ロス＆ダメージ）」基金を新たに設立

①　「1.5℃目標」と2030年削減目標の強化

原油価格高騰などによる石炭利用の増加や、欧州におけるエネルギー危機などにより、温室効果ガス削減目標が後退する懸念もありましたが、結果的に「1.5℃目標」の重要性が確認され、維持される形となりました。しかし、各国の2030年削減目標を達成しても、1.5℃目標に達しないことから、2023年末までに各国の「2030年削減目標」の見直し強化が求められました。

②　「損失と損害（ロス＆ダメージ）」基金の設立が決定

温室効果ガスの排出の多い先進国からの、排出量が少なく気候変動に脆弱な途上国に対する支援については、本会議の主要議題となっていました。最終的には、途上国の中でも特に気候変動に脆弱で被害の大きい国への支援のための「損失と被害」基金を新たに設立することで合意し、今回の大きな成果となりました。

●COP27で積み残された課題

「損失と損害（ロス＆ダメージ）」基金設立が合意に至りましたが、「どの国がいくら拠出するのか」や、「どの国に対し、どのような被害や損失が起きた時にいくら支払うのか」など具体的な運用方法については、決定しておらず、基本的な枠組みを話し合う委員会が設置され、今後のCOPで採択を目指しています。

●2030年までのわずかな時間

国連のグテーレス事務総長はエジプトの会議場からビデオメッセージで、「ロス＆ダメージの基金設立を歓迎します。温室効果ガス排出を劇的に削減しなければなりませんが、今回のCOPでは取り上げられませんでした。再生可能エネルギーへの大規模な投資を行うことで化石燃料依存を断ち切る野心的な飛躍が必要です。すべての国が1.5℃目標に従って一層の努力をする気候連帯協定についても呼びかけます。今回多くの『宿題』を残して閉幕しましたが、それをこなすための時間はほとんど残されていない。」と強調しました。

●次世代の動き

COP27には、「record1.5」である共同代表の中村涼夏さんも参加していました。「record 1.5」とは、2022年９月に日本の大学生２人が立ち上げた団体（発信型ムーブメント）で、その活動は「気候危機における様々な当事者の実態を映し出し、危機感を共有することでムーブメントに新たなパワーを与える」ことを目的としています。具体的には、映像や音声によるコンテンツの配信やコラムやSNSへの投稿を通じて、気候変動の現状を多面的に発信しています。

今回、ドキュメンタリー制作のためにCOP27に参加しており、その制作資金は、クラウドファンディングで集めたようです。今後完成した作品にも注目したいところです。

私たちにできること

今回のCOP27の結果を見ても、気候変動対策がますます重要になってきていることを感じられたと思います。いま一度「私たちにできることは何か」を考え、行動していくことが求められています。

気候変動という大きく長期的な課題に取り組むためには、継続的な行動が必要であり、自治体や企業、団体、市民などの協力が不可欠です。県内各地域でその地域特性を活かしたアイデアや取組が続々と生まれています。様々なライフスタイルや家族構成、年代の方が集まり、和歌山県全体の気候変動対策に向けた新たな動きを作っていきましょう。

参考HP
https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/tokushu/ondankashoene/pariskyotei.html
https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/cop26_01.html?utm_medium=enecho_mailmag
https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/cop26_02.html
https://www.unic.or.jp/news_press/info/45350/
https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/special/2022/1003/0b368a15bcecec0b.html
https://www.nies.go.jp/social/navi/colum/cop27.html
https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/45388/
https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ch/page1_001420.html
https://www.amita-oshiete.jp/qa/entry/016086.php

和歌山県業種別脱炭素セミナー
～県内企業の脱炭素経営を促進します～

和歌山県では、県内企業の脱炭素経営を促進するため、令和４年度から業種別の脱炭素セミナーを開催しています。「脱炭素に取り組みたいけど、何をしたらいいのか分からない。」「同じ業種で脱炭素に取り組んでいる企業の話が聞きたい。」といった企業の声を踏まえて、各業種の特性に応じた具体的な取組内容や国の補助金等の活用を提案しているほか、その業種において先行的に取り組んでいる企業の取組事例の紹介をなど行っています。

旅館・ホテル業界のための脱炭素セミナー

令和５年３月２日には、県民文化会館において「旅館・ホテル業界のための脱炭素セミナー」を開催しました。旅館・ホテル業界は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた業界でもあるため、補助金の活用や省エネにより、エネルギーコストの削減につなげてほしいという思いも込めて実施しました。

先行的な取組事例として、株式会社加賀屋（石川県七尾市）から、ＥＭＳ（エネルギーマネジメントシステム）や高効率蒸気ボイラーの導入、エスカレーターの省力化等により、３年でエネルギー使用量37%削減を達成し、2021年度省エネ大賞の「省エネルギーセンター会長賞」を受賞した内容の紹介がありました。近畿経済産業局からは、省エネルギー投資促進支援事業費補助金（省エネ設備の導入に対する補助金）や省エネ診断（省エネの専門家が施設を訪問し、省エネの提案等を行うこと）に対する支援、省エネ相談窓口等の紹介がありました。一般社団法人省エネプラットフォーム協会からは、旅館・ホテルに対して行った省エネ診断の内容を、具体的な改善点を交えて紹介がありました。また、今後の電気自動車の普及に伴い、旅館・ホテルにおいてもEV充電器の設置が求められるようになることから、ENECHANGE株式会社より充電器の設置に対する国の補助金や、初期費用ゼロで充電器が導入できる同社のサービス内容等について紹介がありました。

旅館・ホテル業界のための
脱炭素セミナー（入門編）
参加費無料!!
～脱炭素の補助金を活用して、宿を強くしよう～

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、社会全体が脱炭素への取組を進めています。本セミナーは、主に旅館・ホテル業界を対象に脱炭素経営の参考となることを期待し、省エネ手法や国の補助金の紹介等を行います。是非ご参加ください。

令和５年３月２日㈭14時～16時

（1）脱炭素政策の動向、補助金の紹介
経済産業省 近畿経済産業局

（2）省エネ診断、省エネ支援事例の紹介
一般社団法人省エネプラットフォーム協会

（3）温泉旅館における省エネ取組事例の紹介
株式会社加賀屋

（4）EV充電器の動向及び補助金を活用した導入方法の紹介
ENECHANGE株式会社

場　所：和歌山県民文化会館 3階特別講堂（和歌山市小松原通1-1）
定　員：50名　※オンラインでも参加可能（Microsoft Teams　定員100名）
※セミナーの内容は旅館・ホテル業界を対象としたものですが、どなたでもご参加いただけます。

申込方法：右のQRコードもしくは以下の方法で申込みください。（申込期日厳守）
メール：e0230001@pref.wakayama.lg.jp
FAX：073-433-3990
郵　送：〒640-8585　和歌山市小松原一丁目1番地
和歌山県環境生活総務課宛
申込期限：令和5年2月28日(火)必着
※オンライン参加者には、期日までにURLを電子メールでお送りします。

問 合 先：和歌山県環境生活総務課
電話：角谷、田中 073-441-2674

主催 和歌山県、和歌山県旅館ホテル生活衛生同業組合

今後の開催

- 今後も様々な業種やテーマを選定してセミナーを順次開催していきます。セミナーの案内は、環境生活総務課のホームページやInstagram「エコの和」等で公表していきますので、是非、御参加ください。
- 当セミナーに関するお問合せは環境生活総務課（TEL：073-441-2674）まで

推進員さん ひょっこり訪問記㊷

御坊市　木戸地　美也子 さん

推進員18期生の木戸地美也子さんは、兄と姉の３人兄弟の末っ子として生まれました。「あまり目立つ方でないけれど『マイルート＆マイペース』タイプの性格で、相手の意見を聞きつつも、自分自身が納得できることや、望むことを感覚的に選んで生きてきた。」と話してくれました。実家が海の近くにあり、海での清掃がごく当たり前の家庭行事となっていて、この春から中学１年、小学５年生、小学３年生になる３人の子供と共に、現在も「日常行事」として続けているそうです。

御坊市で学生時代を過ごした木戸地さんは、高校生の頃、外の世界に行き自分のあり方を見つけたいという思いから、東京に上京するための資金を集めていたそうです。その時、母親から、「だったらアメリカに行ったら？」との提案を受け、語学留学のため、３か月アメリカに渡りました。しかし、「せっかくアメリカに来たのに１日中部屋の中にいるのはもったいない！」と考え、英語スクールをわずか１週間で退学し、アメリカで日常生活をおくりながら交友関係を広げていきました。「今考えるとお金的にもったいなかったなぁと思いつつも、様々な友人との出会いは大きな宝になった。」と、当時を振り返りました。帰国後は、沖縄や九州地方など複数のまちづくり活動に参加し、古民家の再生などのボランティア活動に励みました。23歳で地元の御坊市に戻り、アルバイトや派遣の仕事をしながら「自分がやりたいこと」を探す日々が続きました。そんな中、「我が道を進むマイペース」な木戸地さんに心境の変化が訪れました。その変化のきっかけは、出産と子育てでした。「何かを選択する時、『自分にとって正しいのか』をシンプルに考えて生きていましたが、出産を機に『生まれてきたこの子にとって、この選択は正しいのか』を意識するようになり、ようやく大人の視点を持てるようになりました。」と、母親という役目を通じて得た思考の変化に感謝しながら話してくれました。

また、「子育ての時間」は、「自分の進む道について考える時間」にもなったそうです。この時間に学生時代に感じていた「この町に足りないと感じていたもの」を思い出し、「これまで県外に飛び出し、たくさんの友人ができたけれども、地元には自分と心の通う友人がいない。この先、地域とどう関われば良いのだろう。」と考えるようになり、「地元のことをもっと深く知りたい。」という思いから、『住み開き』と言われる方法で新しいコミュニティづくりを始めました。具体的には、古民家を借りて、その一角をフリースペースとして解放する「住み込み型カルチャーセンター」をつくりました。現在は20程のサークルが毎日入れ替わり利用するという大盛況ぶりです。「古民家では、持ち寄り食事会をしたり、利用者のお子さんを抱っこし合ったりしながら、多くのママさんと一緒に子育てに邁進し、それまで感じていた孤独や不安を感じることなくやってこられた。」と話しました。

日高周辺でクリーン活動を行っている嶋田奈津子さん（本誌43号で登場）から誘われたことが推進員になったきっかけで、嶋田さんからは「クリーン活動はイベント化できる」という気づきも得たそうです。今後は、人との対話を楽しみながら課題や希望に向き合えるイベントを企画する組織を作りたいと考えているそうです。「一度は離れた地元でしたが、失敗も許容してくれるこの町を生き生きとしたコミュニティの場所にしていきたい。」と、手応えと自信にあふれる笑顔で語ってくれました。

イベント情報

●あっそde駅中BOSAI教室

もしもの時に使える色んなモノ。「美味しいストラップ」「ペットボトルでつくる　緊急情報キットと小物入れ」ほか
日時／４月～年４回程度を予定
（詳細は決まり次第告知します。）
場所／朝来駅観光案内所内
主催団体／出張！ふれあいルーム
対象／一般親子（基本は親子で「防災」について考えて欲しいので親子参加。大人だけの参加も可）

申込み、お問合せ／ 0739-33-9610
Instagram ／
https://www.instagram.com/kamitonda_info.center/

●森林体験やクラフトイベント

山で遊び　学ぼう、山林内の小径木（スギやヒノキ）でのクラフト体験など
日時／４月～年４回程度
場所／中辺路町内の山林
主催団体／ NPO 法人つれもてネット南紀熊野

申込み、お問合せ／ 090-2068-3340（千品）

●紀州九度山　真田まつり

日時／ 2023年５月４日
場所／道の駅「柿の郷くどやま」芝生広場
（伊都郡九度山町入郷5-5）
主催／九度山町真田まつり実行委員会
出展／伊都・橋本地球温暖化対策協議会
内容／「地球温暖化防止啓発、自然素材のクラフト教室」

●うみわかまもるプロジェクト

公式サイト
https://umiwaka.net/

主催：一般財団法人和歌山環境保全公社

～広がるクリーン活動の輪～

「和歌山城ごみゼロ活動」
日時／毎月第１日曜日　9:00～10:00
場所／和歌山城周辺（わかやま歴史館前 集合）
主催団体／ NPO クリーン＆コネクト和歌山
申込み、お問合せ／代表 幸前青空090-2915-4210
または公式LINEまで
（公式LINE）
E-mail：cleanconnectwakayama@gmail.com
Instagram／https://www.instagram.com/c_and_c0614/
※Facebook、Twitter、YouTubeも更新しています。

「ビーチクリーンピクニック」
日時／毎月第３土曜日　10:00～（予定）
場所／日高町周辺の海岸など
（詳細は決まり次第告知いたします）
主催団体／アイデアル
Instagram ／
https：//www.instagram.com/ideal_hidaka_bpic/
◎毎月第２日曜日には、オーガニックマーケット『コミーダリンピア』も開催中

「海からクリーン」
日時／毎月第４日曜日　9:30～11:00頃（予定）
場所／広川町周辺の海岸など
（詳細は決まり次第告知いたします）
主催団体／地球清掃団体 hele mai
Instagram ／ https：//instagram.com/_.hele_mai._/

「SHIOGORI BEACH CLEAN」
日時／毎月第３日曜日（予定）
（詳細は決まり次第告知いたします）
場所／田辺市扇ヶ浜
主催団体／AND LOCAL（https：//andlocal.jp/）
Instagram／https：//instagram.com/andlocal/

「Family ビーチクリーン」
日時／毎月第３日曜日　10:00～12:30（予定）（受付9:30～）
場所／和歌山市磯ノ浦、加太周辺の海岸など
主催団体／ Peaceful earth（代表 加藤理菜）
Instagram ／ https：//www.instagram.com/rinapoyorin/
（詳細は決まり次第告知いたします）

「友ヶ島の清掃活動」
日時／毎月第２月曜日（予定）
場所／和歌山市加太地内（友ヶ島）
（詳細は決まり次第告知いたします）
主催団体／ WBC（運営「米市農園」代表 高橋洋平）
ホームページ／ http：//komeichi.net

あなたの活動をサポート **わかやま推進員サイト** わかやま 推進員 検索 イベント情報も随時更新

県センター通信

２月26日の推進員総会では、今回特集で取り上げたCOP27について話題提供を行い、世界は確実に脱炭素の道に進んでいることを共有しました。また、これまで推進員の活動になかなか参加できていなかった方の想いなどを聞き、今後どのような活動の展開が求められるか、を話し合うことができました。県センター長からは、「推進員活動は、『先駆者』として伝えていく役割がますます必要になってきている。」のコメントがありました。
2023年のあなたは、どんな活動を行なっていきますか。わたしたちセンターを今よりも活用して、今一度大きなうねりを作っていきましょう。イベント開催企画、提案、質問など、ご連絡をお待ちしております。

2023 春号 vol.48

わおん通信

発行／和歌山県環境生活総務課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL：073-441-2674　FAX：073-433-3590
mail：e0317001@pref.wakayama.lg.jp

編集・お問い合わせ／和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
〒641-0014 和歌山市毛見996-2
TEL：073-499-4734　FAX：073-499-4735
mail：wenet@vaw.ne.jp

PRINTED WITH SOY INK